

学会発表

下痢、食中毒より検出された病原菌について.

三瓶憲一, 小岩井健司, 内村真佐子, 七山悠三: 第21回千葉公衆衛生学会, 千葉市, 1983. 3. 23.

1970年以後、県内で発生した下痢、食中毒患者および保菌者から分離、送付された菌株について、疫学的基礎資料とするため種々検討している。今回は1982年の成績について報告した。

分離株数は666株でそのうちサルモネラ201株、腸炎ビブリオ165株、赤痢菌83株などが多くを占めた。この赤痢菌のうち58株^①は9月末から12月にかけて、木更津保健所管内福祉施設、袖ヶ浦町、某高校等での集団発生に由来する。各事例ともほぼ同時期に発生したが、コリン型は6、0、型別不能とそれぞれ異なっており関連性は認められなかった。また6月には県内で初めてのカンピロバクター食中毒が市川市内の某高校で発生した。原因は調理実習等の食品と推定された。

赤痢菌の増菌培養法について. 内村真佐子¹⁾, 三瓶憲一¹⁾, 小岩井健司¹⁾, 七山悠三¹⁾, 堀川彰臣²⁾, 渡辺寿恵子²⁾, 竹田敏晴²⁾, 小林崇則²⁾, 鈴木暢枝²⁾, 岡田知子²⁾, 佐々木熙夫²⁾, 鷺谷健次²⁾: 第21回千葉県公衆衛生学会, 千葉市, 1983. 3. 23.

赤痢菌を効果的に検出することを目的に、クロラムフェニコール (CM) を10ug/mlに添加した増菌培養法の有効性について検討した。その結果本増菌法はCM耐性赤痢菌検出に有効な方法であるが、CM耐性雑菌が多数混在する場合にはその効果が期待できないことから、直接培養法・CM添加増菌培養法を併用することによって、赤痢菌検出率を高めることができることが明らかとなった。更にCM添加GN Brothによる増菌法をCM耐性ソネ菌による集団発生時の保菌者検索 (延べ906件) に応用したところ、直接培養法 (赤痢菌陽性7例) に比べ約2.3倍 (16例) の保菌者から赤痢菌を検出することができた。

1) 千葉県衛生研究所 2) 木更津保健所

Campylobacter jejuni による食中毒. II. 検査成績について.

白野孝¹⁾, 時田陽子¹⁾, 態原京子¹⁾, 加瀬京子¹⁾, 鈴木尚¹⁾, 宇野沢高春¹⁾, 稲田正実¹⁾, 小岩井健司²⁾, 三瓶憲一²⁾, 内村真佐子²⁾, 七山悠三²⁾: 第21回千葉県公衆衛生学会, 千葉市, 1983. 3. 23.

1982年6月、県内の某高校において生徒217名中117

名に下痢・腹痛を主徴とする集団食中毒事例が発生した。発症者を中心に細菌学的検査を行なったところ、患者ふん便からC.jejuniを検出し、本菌が起因菌と考えられた。感染源は学校で行なわれた調理実習の試食品と推定されたが、特定の原因食品は明らかにできなかった。

分離菌に対する血清中抗体価を患者30名について測定したところ、1名を除いて80~640倍に上昇した。また分離11株の血清型別の結果、10株がTCK12型に型別され、原因菌としての確認がなされた。

1) 市川保健所 2) 千葉県衛生研究所

散発下痢患者からの毒素原性大腸菌の分離.

内村真佐子¹⁾, 三瓶憲一¹⁾, 小岩井健司¹⁾, 七山悠三¹⁾, 福田トヨコ²⁾, 鈴木和夫²⁾, 菅野治重³⁾, 小林章男³⁾: 第56回日本感染症学会総会, 東京都, 1982. 4. 24.

1979年12月から1981年1月にかけて、散発下痢患者から毒素原性大腸菌の分離を試みた。その結果、624名中22名 (3.5%) から毒素原性大腸菌が検出された。この値は、カンピロバクター (12.1%) に次ぐものであった。

22名から検出された23株の毒素原性大腸菌のうち17株 (73.9%) はST単独産生株であり、5株 (21.7%) はLT・ST両毒素産生株、1株はLT単独産生株であった。それらの株は血清型で15菌型に分類された。分離頻度の高い血清型は、0148:Hut (15株)、06:H16 (3株) であった。

1) 千葉県衛生研究所, 2) 辰巳病院, 3) 千葉大学医学部

走査型電子顕微鏡による条状菌汚染玄米表面および表層の観察. 高橋治男¹⁾, 矢崎広久¹⁾, 真鍋勝²⁾, 松浦慎治²⁾: 第16回マイコトキシン研究会静岡盤田市, 1982. 10. 9.

カビにより汚染をうけた貯蔵玄米の表面、および果穂皮を除去しち後の表層部分を、走査型電顕を用いて観察し、汚染カビの米粒内部への侵入経路を推定した。その結果、汚染カビは、玄米の胚芽を覆う果皮表面のくぼみや間隙に着生すると、そこからまず胚芽へ侵入し、そこで増殖や孢子形成を行なうものとみられた。次いで、粒の表面ではなく、主として果穂皮とデンプン胚乳部との間にあるアリーロン層に沿い、更に内部へ侵入するものと推定された。

1) 千葉県衛生研究所 2) 農林水産省食品総合研究所

穀物中の各種マイコトキシンの分析法. 矢崎廣久, 高橋治男, 七山悠三: 第44回日本食品衛生学会, 福岡市,

1982. 11. 25.

米、麦類にアフラトキシンB1、B2、G1、G2、ステリグマトシスチン、オクラトキシン、シトリニンなどを添加し、フィールド・サーベイ等に適用可能な簡易分析法の検討を行なった。抽出溶媒はアセトニトリル系が良好で、検出および確認操作は、逆相分配薄層クロマトならびにODSカラム付の高速液体クロマトを用いることにより可能になった。

コーヒー豆中のアフラトキシン疑似物質について。矢崎廣久¹⁾、高橋治男¹⁾、七山悠三¹⁾、上野郁子²⁾、祓川貴美江³⁾、上野芳夫³⁾：第17回マイコトキシン研究会、東京都、1983. 2. 5.

市販のコーヒー豆およびインスタントコーヒーについて、公定法に準じた分析を行なったところ、アフラトキシンB2様物質が検出された。これらけい光物質を単離・精製ののち、各種スペクトルによる同定、誘導体調製化反応ならびに酵素免疫測定などの方法により、アフラトキシンと差異があることを証明した。

- 1) 千葉県衛生研究所 2) 東京大学医科学研究所 3) 東京理科大学薬学部

逆相分配イオンペアー・クロマトグラフィーによるマイコトキシン分析法。矢崎廣久、高橋治男、七山悠三：第21回千葉県公衆衛生学会、千葉市、1983 3 23.

穀物中の代表的な7種類のマイコトキシンについて、逆相分配イオンペアー・クロマトグラフィー（PIC）を応用した精製法を検討した、PIC逆相分配カラムとしては、セップパックC18を、またカウンターイオンにはリン酸テトラブチルアンモニウム溶液を用いてイオンペアーを形成した。定量・確認の際に、逆相TLCを使用することにより、これらマイコトキシンの同時分析が可能であった。

Aspergillus versicolor 汚染玄米内部におけるステリグマトシスチンおよび侵入菌糸の分布。高橋治男¹⁾、矢崎廣久¹⁾、真鍋勝²⁾、松浦慎治²⁾：第16回UJNR有毒微生物専門部会、Madison, Wisconsin, U.S.A 1982. 10. 18.

Aspergillus versicolorにより汚染をうけた貯蔵玄米内部における侵入菌糸の分布を走査型電子顕微鏡により、またその産生カビ毒であるステリグマトシスチンの分布を蛍光顕微鏡により観察した。更なる汚染玄米を精白し、白米およびぬか区分におけるカビ毒の分布を化学分析によってもとめた。

顕微鏡による観察では、侵入菌糸とカビ毒の分布には、ほぼ相関性がみとめられ、それらは胚芽、アリューロン層とそれに接するデンプン胚乳部の表層部に、そのほとんどが局在した。またこの結果は化学分析でも裏付けられ、大部分のカビ毒は精白の際に除去され、白米中のカビ毒は激減していた。

- 1) 千葉県衛生研究所 2) 農林水産省食品総合研究所

ラット裂溝内の細菌叢について。鶴水隆¹⁾、尾崎文字²⁾、佐藤誠²⁾、武井啓一²⁾、長岡加代²⁾、岡田昭五郎²⁾：第31回日本口腔衛生学会、東京都、1982, 9, 21.

In-vitroの実験で、ラット臼歯裂溝内にStr. mutansが侵入する傾向があることはすでに述べたが、種々の細菌の共有する口腔内環境における、萌出直後の臼歯裂溝内への細菌の侵入、定着様態を調べ、裂溝ウ蝕との関、を明らかにするために、裂溝内細菌叢の検索を行った。

ウイスター系ラット臼歯は17日令でM1咬頭頂の一部が萌出し、20日令で萌出が完了する。この時点で裂溝内にCameloblastがまだのこっているが、裂溝上部から逐次消失する各菌種の付着様態は19日令で裂溝上部内壁に球菌、桿菌が付着しはじめる。20日令では一部の長桿菌もみられ、21日令（離乳時）には、裂溝底部にも、球菌、桿菌が観察された。萌出直後の臼歯裂溝内に、すでにStr. mutansの存在することも確認された。

- 1) 千葉県衛生研究所 2) 東京医科歯科大学歯学部

Str. mutans の付着抑制について。鶴水隆¹⁾、佐藤誠²⁾、尾崎文字²⁾、大西正男²⁾、橋本喬³⁾：第31回日本口腔衛生学会、1982. 9. 21.

Str. mutansの歯牙面への付着の要因と考えられる菌体表層の線毛層（付着素）とその抽出抗原を用いて、着抑制とウ蝕誘発におよぼす影響について検討した。

各菌型のMutational phase Iの菌体をglutaraldehydeとOsO4の2重固定後、超薄切片をNegative stainおよびシャドウイングした標本を電顕で観察した。

付着素の抽出は各菌型の菌体IM塩化ナトリウム加0.1Mリン酸塩緩衝液で精製し、得られたタンパク分画に水酸化アルミニウムを加えて抗原とした。

各菌型の差はなくいずれの菌体表面にも短い線毛様構造物が観察された。

精製抗原のハムスター実験系でのウ蝕誘発抑制効果が認められた。

- 1) 千葉県衛生研究所 2) 東京医科歯科大学歯学部 3) 北里研究所

梅毒血清試験法の比較検討. 山辺靖子¹⁾, 春日邦子¹⁾, 酒井利郎¹⁾, 時枝正吉¹⁾, 浅岡勲²⁾: 第21回千葉県公衆衛生学会, 千葉市, 1983. 3. 23.

昭和55~57年に梅毒検査依頼のあった血清について、カルジオピリン-レンチンを抗原として用いるガラス板法、RPRカードテストとTreponema pallidumを抗原とする血球凝集反応（TPHA法）、免疫蛍光間接法（FTA-ABS法）を行った結果を検討した。また、TPHA法については従来のマクロ法とマイクロ法を比較検討した。

TPHA抗体の高い者はFTA-ABS法でも高い抗体を示す傾向にあり、両検査法の一致率は高かった。またTPHA法とFTA-ABS法で陽性の者は、ガラス板法、RPRカードテストでの陽性率も高かった。

マクロTPHAとマイクロTPHA法の比較では、陰性は90%以上の一致率であり、抗体価の高い所では、マイクロTPHAの方が低く目に出る傾向にあったが、多量の検体を一度に処理しなくてはならない集団検診等には、マイクロ法の方が、時間の短縮、簡便さという点ですぐれている。

1) 千葉県衛生研究所 2) 船橋臨床医学研究所

千葉県におけるヘルパンギーナの流行調査.

酒井利郎¹⁾, 山辺靖子¹⁾, 春日邦子¹⁾, 時枝正吉¹⁾, 市村博¹⁾, 徳永勲²⁾, 藤本辰一³⁾, 小林みち子⁴⁾, 石橋美恵子⁵⁾: 第21回千葉県公衆衛生学会, 千葉市, 1983. 3. 23.

ヘルパンギーナは、毎年夏期を中心に全国各地で流行する。主として乳幼児にみられる急性熱性疾患である。1982年6月頃より東葛地域、千葉、佐倉市を中心に流行のめられたヘルパンギーナの実態を把握するため、ウイルス学的検査を実施したので、報告する。千葉市内の2定点医療機関より、ヘルパンギーナの検査材料を採取し、ウイルス分離を試みたところ、哺乳マウス接種法で8例中6例より、コクサッキーA3型4例、A4型2例を分離同定した。又、細胞培養法でも、コクサッキーB3型1例を分離同定した。この成績は、関東近県における分離状況とはほぼ一致し、1982年本県におけるヘルパンギーナの流行は、いままで散発的に検出されたのみであったコクサッキーA3型、A4型を中心にした流行であったことが推察される。

1) 千葉県衛生研究所 2) 衛生部予防課 3) 市川市保健所 5) 蘇我病院

千葉県内小児における風疹、麻疹、ムンプスの血清抗体保有状況について. 時枝正吉¹⁾, 山辺靖子¹⁾,

春日邦子¹⁾, 酒井利郎¹⁾, 市村博¹⁾, 曾田研二²⁾, 芦原義守³⁾, 宮沢博³⁾, 信藤羊一⁴⁾: 第41回日本公衆衛生学会, 福岡市, 1982. 10. 29.

昭和56年9月以降に採取した県内南部を除く小児（0~16歳）と、県内館山地域の中学生（1~3年生）について赤血球凝集抑制試験を用いて血中の風疹、麻疹、ムンプスの抗体価を測定した。

下記の両地区の各ウイルス抗体保有率は、風疹で館山地区の保有率が、県内小児の同年令群に比べて約1/2であった他は、麻疹90%、ムンプス70%と差は認められなかった。麻疹の保有率は2~5歳群において70%台に急激に上昇していることは、ワクチン接種によるものと推察される。また一部の血清について、赤血球凝集抑制試験とELISA法について比較検討してみた。

1) 千葉県衛生研究所 2) 横浜市立大学 3) 杏林大学 4) 館山保健所

気候からみた豚日本脳炎HI抗体の経年的消長.

市村博¹⁾, 時枝正吉¹⁾, 山辺靖子¹⁾, 酒井利郎¹⁾, 春日邦子¹⁾, 曾田研二¹⁾, 芦原義守²⁾: 第41回日本公衆衛生学会, 福岡市, 1982. 10. 29.

原生省流行予測事業による過去17年間、観察されたと畜場豚における日本脳炎HI抗体価保有状況の資料と、抗体価保有状況の資料と、抗体価上昇の一因とも考えられる気象条件、殊に気温との関係について、経年的な消長を考察した。1965年~81年の5月~10月の夏期を中心とした6ヶ月間で一日の平均気温が20℃以上を越した日数が60%以上あった年が8年認められるが、日本脳炎患者が大きく減少してきた68年以降は5~4%少なくなり、さらに25℃以上を越えた日数は、68年以降10%台の夏の平均気温が下降傾向にあった。殊に、'74、'80、'81年は25℃を越えた日も少なくHI抗体価も高抗体価がなく、保有率も低かった。HI抗体保有率を年毎に気温と重ねてみると、'65~'67年に全例陽性となったのは8月中旬であり、50%陽性はさらに1~2週間早く出現したが、'68年では100%陽性なし、'69年には10月に入って上昇している。'73年には数年が低温気味であったためかHI抗原抗体価の動きも遅い傾向にあった。'80~'81年も気温は低くHI抗体保有率も40%以下であった。

1) 千葉県衛生研究所 2) 杏林大学

千葉県における感染症の地域的発生状況に関する一考察. 北山秋雄¹⁾, 市村博¹⁾, 徳永勲²⁾, 神津裕之²⁾: 第21回千葉県公衆衛生学会, 千葉市, 1983. 3. 23. 本県では、1981年12月から厚生省感染症サーベイラン

ス事業に参加し、21疾病について患者発生数を県内77定点より得ている。各病症の収集された資料を解析する場合、地域的特異性を考慮する必要がある。そこで、現在の行政区画、人口密度、定点観測分布等を参考に、県下を3分画し、3地域間の患者発生状況を比較・検討した。その結果、3地域間で有意に異なる ($P < 0.1$) 発生状況を示した疾病は、麻疹、風疹他5疾病、3地域間で類似の傾向を示した疾病は、突発性発疹と川崎病、2地域間が類似の傾向を示し、他の1地域が異なる傾向を示した疾病は、百日咳、インフルエンザ他6疾病であった。こうした地域的相違がみられる要因として、特に予防接種実施率が考えられる。そこで、麻疹、風疹、インフルエンザの各疾病について、過去4年間の平均予防接種実施率を調査したところ、麻疹とインフルエンザは患者発生状況と予防接種実施率がほぼ一致した成績であるが、風疹は必ずしも一致しなかった。風疹の場合、予防接種対象者が、通常、13~15歳の女子であったためと考えられる。

1) 千葉県衛生研究所 2) 千葉県衛生部予防課

走査型電子顕微鏡によるコレゴン鰓尾虫の観察。 福田芳生¹⁾、中島健二²⁾: 第93回日本獣医学会, 相模原市, 1982. 4. 2~3.

コレゴン鰓尾虫は、他の鰓尾虫とはほぼ類似の形態を有する魚類の付着害虫である。主要な器官は虫体の腹面に集中する。まず、第1触角第2節は変体し鋭い鉤状を呈する。鰓尾虫類の特徴である1対のカップ状の吸盤は、第1小顎の変形による。このカップ状の吸盤の間に細い刺針が位置する。この刺針は吸盤器官とする説があるが、先端部の直径が $2\mu\text{m}$ 前後であることから、毒液の注入装置と考えるべきである。その後方に吻部があり、中央に1対の吸引装置が存在する。コレゴン鰓尾虫は、吻部の唇状部にある歯状構造と第2顎基部の鋭い棘を可動させることによって、魚の皮膚を機械的に破壊し、血液及び組織片を摂取するそとが考えられる。カップ状の吸盤は鰓尾虫中の魚体から離れた場合、直ちに捕食されてしまうことから自身を護る機能を持つと詰論される。

1) 千葉県衛生研究所 2) 三共製薬KK

The role lipoperoxidaion to the inflammation in the testes of rats induced by CdCl . J. Sajiki, Y. Fukuda, E. Fukushima, A. Hirai, Y. Tamura and A. Kumagai, : V international conference of prostaglandins, Florence (Italy) 1982, 18~21.

ラットにCdCl₂皮下投与した際生ずる精巣炎症に脂質の過酸化が関与しており、抗酸化剤の併用が炎症を抑えることが明らかである。このCd中毒の過程を電子顕微鏡により観察し、脂質過酸化と組織障害との関連について考察した。

臓器中ヘムタンパクの定量とその応用, 佐二木順子¹⁾、平井愛山²⁾、田村 泰²⁾、熊谷 朗³⁾: 第20回日本臨床代謝学会, 東京都, 1983, 2. 5-6.

組織内出血あるいは溶血等の度合を示す尺度として、これまでは、肉眼的ないしは病理学的観察に頼っていた。

本報告では、組織ホモジネートを用い二波長分光法を導入し血液量の含量を測定する方法を試みた。

1) 千葉県衛生研究所 2) 千葉大学医学部
3) 富山医科薬科大学医学部

千葉県におけるアタマシラミの流行と、薬剤による集団駆除成績について。 林 晃史¹⁾、藤曲正登¹⁾、加納六郎²⁾: 第34回日本衛生動物学会, 帯広市, 1982, 6, 12.

近年問題となっている、学童間のアタマシラミの流行について、千葉県下の実態調査を行い、集団発生があった小学校においてfenothrinによる駆除試験を行った。

千葉県におけるアタマシラミの流行地は、県北・西部地域と東京湾岸の市町村で、特に湾岸北部の各市の小学校で高率の発生がみられた。集団発生の問題となった小学校の児童のシラミ保有率は4~28%であり、女兒の保有者が全体の88%を占め、学年別では1~3年の低学年に多くみられた。

集団発生があった小学校で、0.4% fenothrin 粉剤により一斉駆除を行ったところ、6日後55%、16日後80%の駆除効果のみられたが、学校全体の保有者がなくなるまで3ヶ月を要した。児童個別の試験では3回処理で10日後に100%の効果のみられた。学校等において集団発生のあった場合、校外環境の影響を考慮すべきであり、保有児童に対する薬剤投与だけでは完全駆除が困難であると考えられる。

1) 千葉県衛生研究所 2) 東京医科歯科大学医学部

日本における防疫殺虫剤の現状と問題点 (特別講演). 林 晃史 : 第1回国際害虫防除集会 (第49回N. P.C.A. 総会), カナダ国, トロント市, 1982, 11, 5.

日本における害虫防除の歴史に始まって、殺虫剤の種類 (法的位置と分類)、防疫殺虫剤の定義、殺虫剤開発

の背景、特殊製剤の法的位置づけおよび問題点に関し、具体例をあげて解説し、国際位置付けを示した。

ことに日本独自の殺虫剤や法的特殊性PCOの社会的評価などについて実情を整理して示した。

- 1) 千葉県衛生研究所 2) 千葉大学医学部
3) 富山医科薬科大学医学部

防疫用殺虫剤の現状と将来（シンポジウム）

一：防疫殺虫剤に何を期待するか。 林 晃史：第34回日本衛生動物集會大会，帯広市，1982，6，11。

昨今、本邦において伝染病の大流行はみられず、防疫殺虫剤はベクター・コントロールからニューサンス・コントロールへの転換を迫られている。

その現実に対応するには、現在のものでは製剤特性に欠け、その改良に際しては、生理・生態および都市工学にまたがる基礎的な研究が必要である。

また、従来の「そ族昆虫駆除事業」にかわって、今日では一般の人が害虫防除の重要な担い手となることが要求されてきた。

このことは、用法用量に間違いを生ぜしめず、安全に処理が出来る薬剤と器具の開発を必要とする。

今回、現状に則した特殊製剤と器具に関する具体的提言をするとともに、問題解決への端緒とした。

含硫食品検出される亜硫酸について。 宮本文夫¹⁾，佐伯政信¹⁾，原田基夫²⁾：第44回日本食品衛生学会，福岡市，1982，11，25-26。

食品中亜硫酸のイオンクロマトグラフィーによる定量法を考案し、改良ランキン-GC法と比較検討した。

イオンクロマト法における亜硫酸10ppm添加での回収率は一般食品では82~100%、含硫食品では0~57%で改良ランキン-GC法とはほぼ同一の結果であった。食品からの亜硫酸の検出値は一般食品では二方法とも同一の値を示し、含硫食品ではイオンクロマト法がやや高い値を示した。

これらの方法を用いて含硫食品、亜硫酸添加一般食品からそれぞれ検出される亜硫酸の分析上の挙動の違いを調べた。

アルカリ加水分解処理試料と細切処理試料の検出値を比較すると、一般食品では0.3~1.5倍、含硫食品ではわさび粉を除いて4~40倍の高い値を示し、両者に違いが見られた。また、留出傾向においても一般食品は20分で留出が完了するのにに対し、含硫食品では留出が長びく傾向が見られた。

- 1) 千葉県衛生研究所 2) 国立衛生研究所

果実加工品の安息香酸について。 宮本美紀子¹⁾，穴倉義春¹⁾，森茂¹⁾，服部隆男¹⁾，宮本文夫²⁾，佐伯政信²⁾：等21回千葉県公衆衛生学会，千葉市，1983，3，23。

食品中の安息香酸の自然含量を把握する目的で、保存料無添工の果実加工品（清涼飲料水、ジャム、シロップ漬け）43種類69試料につきて安息香酸含量を調査した。

分析方法は紫外外部吸光法を微量かつ簡易化した方法を用いた。

結果はほとんどの果実加工品から安息香酸が検出され、クランベリー加工製品80ppm、アンズ加工製品3~25ppm、プルーン加工製品4~8ppm、プラム加工製品1~7ppm、ウメ、キンカン、チェリー加工製品1~2ppmの範囲であった。

- 1) 柏保健所 2) 千葉県衛生研究所

GC-MS-MID法を用いたクロロデンの分析法の検討。 吉周 康，保坂久義，加藤嘉久，佐伯政信：第21回千葉県公衆衛生学会，千葉，1983，3，23。

白あり防除剤クロデンが、水、底質から検出され、魚介類への影響が懸念されたので、分析法を検討した。ハゼ20gを粉碎後、溶媒抽出、液々分配し、活性炭およびフロリジルカラムで精製した。定量は、ガスクロマトグラフ質量分析計多重イオン検出器（GC-MS-MID）法およびキャピラリーカラムを含むGC法で行い、10種の単離標準品を各々0.04μg添加し、7種で80%以上の回収率を得た。本法により、定量と確認が同時に可能となった。

GC-MSによる脂肪族ハロゲン化合物の同定。 加藤嘉久¹⁾，佐伯政信¹⁾，今井運²⁾：第21回千葉県公衆衛生学会，千葉市，1983，3，23。

殺線虫剤であるD-DおよびEDBについて、GC-MSによる組成成分の同定を行った。D-Dは、強極性のPEG-20Mを用いることにより良好な分離を示し、それぞれ1、2-ジクロルプロパン（C₃H₆Cl₂）分子量112、1、3-ジクロルプロパン（C₃H₄Cl₂）分子量110のCis.trans型と同定された。EDBは、無極性のDC-200を用いて、1、2-ジブロムエタン（C₂H₄Br₂）分子量186と同定された。

- 1) 千葉県衛生研究所 2) 千葉県農業共済組合連合会

千葉県地下水質データ集の作成について。 藤代良彦，○日野隆信，菊池辛子，小室芳洵，中西成子，中山和好，成富武治，吉田豊（A,B,C順）：第19回全国衛生化学技術協議会年会，京都市，1982，

9 , 21.

千葉県内には豊かな流れを持つ河川が少なく、古くから県北西部地域では豊富で良質な地下水を多く利用してきた。近年では、地盤沈下の防止のため、地下水取水の制限および広域水道の促進で河川水の利用が進んできているが、簡易水道の大部分は依然として地下水を水源としている。県ならびに各市町村では、この重要な資源である地下水の調査を行なって来ているが、県下全般にわたる地下水の水質は正確に把握されていない。本データ集は、県下において行なわれた地下水水質データをできるかぎり集め、汎用的な利用のため、一定形式でデータを整理集計した。本報告では、データ集の作成ならびに本データ集を利用して、パーソナルコンピュータによる統計集計結果について述べた。